

静岡県 図書館協会会報

No.84

令和6年7月31日発行



編集・発行 静岡県図書館協会 静岡市駿河区谷田53番1号 静岡県立中央図書館内

読み物のススメ

静岡県図書館協会会長
静岡県立中央図書館館長

高橋 健二



「新聞・雑誌や書籍の販売数が減少している」「図書の貸出し冊数が伸びない」など、活字離れの傾向を危惧する声を時折り耳にします。思考力、表現力、コミュニケーション能力等の向上に寄与する読書ですが、近年スマホの爆発的普及の影響もあり、若干苦戦気味？そこでこの場を借り、自戒の念も込め、読書の意義や利点を整理し、その重要性をPRしてみたいと思います。

No pains, no gains.

(苦勞なくして、得るものなし)

現代社会は利便性に富んでおり、とかくタイパやコスパが重視され、いかに効率よく・早く・楽に物事を処理するかが重視されがちです。しかし世の中に溢れる知識や情報を選別し、自分の思考回路に取り込むには、書籍を何度も読み返したりメモをとり要点をまとめるなど、アナログな粘り強い行動が必須です。スマホ検索とは異なり、これは面倒なことかもしれませんが、運動しなければ体力が衰えるのと同様に、労力を割いて書籍と向き合わなければ、快適さと引き換えに私たちは生きる上で大切な素養を失う可能性があることは認識しておくべきでしょう。

You are what you eat.

(あなたの体は食べたものでできている)

書籍に関連して言うと、「本棚を見れば、持ち主の人間性が分かる」という表現もあります。栄養を摂取することで肉体は形成されますが、私たちの思考や精神も情報のインプット(読む・聞

く・見る)で形作られます。読書という行為は、①書籍の情報を得る、②書籍をゲットする、③時間をかけて読む、という主体的な過程が思考や人格を涵養し、購入本を並べた書棚にはその人の個性や生き様が反映されます。好きな本のコレクションは思い出アルバムの如く、眺めていると自己理解が深まり自己肯定感の向上にも繋がります。

Like father, like son.

(この親にしてこの子あり)

「最近の若いもんは…」という若年層批判は、5,000年前の古代エジプトの粘土板にもあるようで、私も学校に勤務していた頃、「うちの子はスマホばかり見て、読書は全くしてません」と嘆く声を耳にしました。しかし、そう主張する大人の側はどうでしょう？通勤の車内、外出先の休憩時、そして家庭で、大人は読書をしているのでしょうか。子どもたちは大人の姿をよく観察し、自分たちの行動様式を確立していきます。まずは大人が手本を示し、日常生活においてスマホではなく書籍を手にする習慣や環境を築くことが、読書人口拡大に向け大変重要だと考えます。

図書資料に囲まれて過ごす我々図書館職員は、読書のメリットを十二分に享受できる環境にあり、自ら読書に勤しみ身近なところから啓発に取り組むことが可能です。私も改めて読書の重要性を認識し、様々な視点で図書館の振興に取り組んでいく所存です。よろしく願いいたします。

子供の読書活動優秀実践図書館
文部科学大臣表彰
焼津市立図書館

子どもたちが読書を好きになる 図書館をめざして

焼津市立図書館では、「第3次焼津市子ども読書活動推進計画」（令和6年3月）を策定し、読書環境の整備・充実、読書機会の提供、読書活動の啓発と普及を3つの基本方針とし、家庭や地域、学校が連携協力して子どもの読書活動を推進しています。

図書館でのおはなし会の開催や、館外へ出向いてのブックスタート事業、子育てコンシェルジュと協力したおはなし会など、子どもの成長段階に応じて実施することで、乳幼児の段階から本に親しむ大切さを知ってもらう機会の提供や、利用者の利便性と拡大を図っています。

また、ひな祭りや鯉のぼり作りなど季節に合わせた行事の実施や、市内全小学1年生への図書館利用案内パンフレットの配布、小学4年生へのブックリストの配布のほか、小学生を対象に、100冊の読書記録ができる読書手帳「やいっちょ」を配布し、1,000冊読破した児童を「焼津市スーパー読書マスター」として認定する事業を実施するなど、子どもたちが読書の楽しさやすばらしさを知り、一人ひとりの子どもがたくさん

の本と出会えるよう努めています。

世界名作童話集や絵本を基にしたアニメなどを上映する「こども映画会」事業や、外国に繋がりのある3歳から8歳くらいまでの児童とその保護者を対象に、常葉大学と共催し大学生による日本語、英語、ポルトガル語での絵本の読み聞かせ、3歳くらいから小学3年生までの児童とその保護者を対象とした英語の絵本の読み聞かせや工作など、子どもたちの興味に応じた講座を行っています。

また、本を通じた楽しい体験を提供する事業や、図書館をより深く知ってもらう機会を設けるため、こども図書館員講座を開催しているほか、大井川図書館では期間限定で展示室をキッズルームとして開放し図書館への来館を敬遠しがちな親子が過ごしやすい環境を提供しています。

これからも、焼津市の取り組みが子どもたちから親しまれ、子どもたちの自主的な読書活動が定着していくきっかけとなるように、努めてまいります。

（焼津市立図書館 館長 平田 泰之）





リニューアル図書館紹介①



人型バージョン キツネバージョン
藁科公式キャラクター「わらしい」

藁科図書館が 生まれ変わりました！

静岡市立藁科図書館は静岡市葵区の西北地域、安倍川の支流である藁科川沿いに建つ、蔵書数約9万冊の小さな地域館です。生涯学習センターとの複合施設として平成元年に開館して約35年が経過し、老朽化に伴う設備機器等の更新が必要となったため、令和5年5月から休館して大規模改修を行いました。

リニューアルにあたってのコンセプトは『どの世代にとっても利用しやすく、藁科地域の良さが感じられる図書館』。照明のLED化やトイレの洋式化、電気設備等の機器更新の他に、藁科川の風景を楽しみながら読書ができる読書席を新たに6席設け、腰壁には静岡市産材の「オクシズ材」を使用するなど、藁科地域の良さを生かした館内となりました。

また、高齢者と就学前のお子さんがあるご家庭の利用が多くYA世代の利用は今一つ、という今までの利用者層を考え、一般図書のあるコーナーにはゆっくり読書をしたい高齢者のためにソファや大きめの椅子を



配置し、学生にも来館してもらえよう自習にも使えと明記した個人キャレ席を用意しました。育児に関する資料や子ども向けのCDを児童コーナーに移動させたり、高齢者の利用が多い文庫、大活字、朗読CDを同じ場所に配置したりと、利用者の動線を考えた配置も心がけました。館内は蓋つき飲み物の持ち込みを可にし、館内サインもユニバーサルデザインを意識したフォントや色使いにしています。ひとつひとつはちょっとした工夫ですが、来館した方が快適に心地よく過ごしていただけることを心がけました。

令和6年4月20日のリニューアルオープン後は記念イベント『Night Library ~図書館に泊まろう!~』の開催や地域の民話にまつわる公式キャラクターを作成し、生涯学習センターとの共催事業にも力を入れています。皆様ぜひ藁科図書館にお越しください。お待ちしております！

(静岡市立藁科図書館 館長 田中 邦子)



リニューアル図書館紹介②

文化をつなぐ本の庭 牧之原市立文化の森図書館「いろ葉」



牧之原市に、また新たな図書館が令和6年4月21日にオープンしました。名前は、牧之原市立文化の森図書館「いろ葉」。元は榛原文化センター2階にあった榛原図書館を、1階に機能移転し、前身の榛原図書館からリニューアルオープンしたものです。この文化の森図書館は、図書交流館「いこっと」が本市の交流拠点の一つとして成功したことに続き、本市の多様な文化活動を支える拠点を目指しています。

これまでの榛原図書館は、読書テーブルや読書席が少なく、読み聞かせをするスペースがない、本を貸出・返却するだけの図書館でした。そんな場所であっても、来館する親子連れや学生の皆さんはもちろん、施設で開催する生涯学習講座の参加者の皆さんなど、多くの市民が読みたい本を探したり、新刊本を読んだり、と楽しみにやってくる図書館でした。

リニューアルした文化の森図書館「いろ葉」は、読書を楽しむことはもちろん、多様なスタイルの読書席で調べものをする人や、試験勉強をする学生、資格勉強をする大人、多彩な利用者で賑わっています。また、

屋外にあるパーゴラ（テラス）席では、友だち同士でお弁当を広げる学生や、近くのグラウンド帰りのサッカー少年たちも集まってきます。ほかにも「図書館の窓から見える庭を楽しんでほしい」と本市の市民協働グループがデザインから取り組んだ、想像力を豊かにしてくれる素晴らしい庭もできあがりました。

「図書館がきれいになって良かった」「工事が終わることを待っていた」と市民の声が寄せられ、また榛原文化センター施設の貸室を利用する市民から「講座の帰りに待合せしたい」という声もあります。

図書館で働く私たちにとって、子どもの頃から利用していた榛原図書館が、文化の森図書館として子どもたちに受け継がれていく姿を見ることができ、ここから未来に繋いでいく文化や伝統を楽しみにしています。

小さな図書館ですが、県立図書館や近隣の図書館の皆さんと連携して、地域の皆さまに満足していただけるよう、スタッフ一同で頑張っています。お近くにお越しの際にはぜひ、お立寄りください。

(牧之原市立図書館 館長兼社会教育課図書係長 八木 いづみ)

令和6年度 静岡県図書館大会

日時 令和6年11月11日(月) 午前10時00分から午後3時45分まで

会場 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
(〒422-8005 静岡市駿河区東静岡2丁目3-1 JR東静岡駅隣接)

日程

(1) 全体会

10:00～10:30 開会式・表彰式

10:45～12:15 講演会「徳川家康は本を読んで天下を取った」
講師 小和田 哲男氏 (静岡大学名誉教授)

(2) 分科会 13:45～15:45

第1分科会 「読む喜びを全ての人に～読書バリアフリーの推進～」
講師 野口 武悟氏 (専修大学文学部教授)

第2分科会 「つながる信州の図書館」
講師 槌賀 基範氏 (県立長野図書館総務企画課企画係長)

第3分科会 「言葉と歩む」
講師 小風 さち氏 (児童文学作家)

第4分科会 「図書館がカラフルな学びの場になるために図書館員ができること」
講師 松田 ユリ子氏 (神奈川県立新羽高等学校学校司書)

第5分科会 「大学図書館のユニバーサルデザイン
～学生・教職員のために、大学図書館ができること・おこなうべきこと～」
講師 飯塚 潤一氏 (筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター教授)
宮田 圭介氏 (静岡文化芸術大学名誉教授、元 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター長)



令和5、6年度 静岡県図書館大会 運営委員から

運営委員の業務は、開催要項の検討、講演会、分科会のテーマ決定、講師の選定や交渉、大会当日の運営を行います。令和5年度は第30回記念大会ということで、静岡県内の図書館を紹介する展示の準備も行いました。

私は、分科会の図書館サービスに関する講演を担当しました。講師との交渉や講演内容の調整など、不慣れな作業が多く苦勞しましたが、無事に大会を終えることができ、大変うれしかったのを覚えています。

普段あまり交流する機会がない講師や他の図書館員などと、分科会や講演会をとおした意見交換や、新しいアイデアを得ることができる時間も多く、運営委員を務めたことで貴重な経験ができました。



図書館大会に参加することが初めてだったため、千人規模の参加者が集まる場に圧倒されましたが、参加者が熱心に聴講する姿や、大会後のアンケートを拝見すると、静岡県内の図書館はよりよくなる一方ではないかと期待を寄せています。

今年度は、また新たなテーマで分科会を進めていく予定です。

図書館に関わる全ての方に役立つ情報をお届けできるよう尽力しますので、令和6年度静岡県図書館大会にぜひ御参加ください。

(熱海市立図書館 主事 芹澤 珠奈)